

静岡県民俗学会会報 第197号

http://web.thn.jp/s-folklore/

2026年3月8日発行

静岡県民俗学会 〒424-0053

静岡市清水区渋川1-9-6-101

mail: s-folklore@fuji.tnc.ne.jp

振替口座: 00850-5-10438

◇令和7年度 第1回見学会のご案内◇

一静岡県史民俗調査地 水窪町草木を訪ねる一

令和7年度第1回の見学会は、浜松市天竜区水窪町奥領家草木でおこないます。当地は、静岡県史編さん事業で1987年(昭和62)8月22日から26日までの5日間にわたり民俗調査をおこない、その後も霜月祭、コト送り、正月、盆踊などの諸行事の補足調査をおこなった地域です。その成果は1989年(平成元)『静岡県史民俗調査報告書第九集 草木の民俗—磐田郡水窪町—』にまとめられ、現在では非常に貴重な聞き書調査資料が掲載されています。

草木の概要は、本会初代会長の故石川純一郎氏が総説で記されています。長くなりますが引用させていただきます。

水窪町草木は水窪川の上流、白倉川・草木川に沿う、遠州最北のムラである。信遠国境に屏風のように聳え立つ分水嶺から派生する峻峰の山腹または麓に、針間野・大嵐(以上白倉川流域)・遠木沢・北島・下草木(以上草木川流域)・渡元(落合地点)の六つの小集落が点在する。

これらの集落は山に拠り、山に依って暮らしをしてきたヤマのムラである。山岳斜面を生活舞台として、焼畑を含む畑作農耕を営み、農間稼ぎには山林労働に従事した。

農業経営の有様や体系立てられた農耕儀礼、雑穀・根菜類・堅果類からなる食生活は、山地畑作民的文化そのものであり、いまにその生活様式の面影を宿している。また、地域住民の空間認識にも独特なものがあり、氏神祭祀における湯立神事と山の宗教家たるネギの存在に中世の残照をみるおもいがする。

石川氏が語られているように、当時は山村の暮らしの豊かな知識と技術の知恵が息づいており、過疎化は進んでいても大勢の元気な古老に出会うことができました。現在、草木はどのように変化

しているのでしょうか。遠州常民文化談話会が2012年(平成24)に刊行した『水窪の民俗』には、会員が2年間水窪に通い続けて収集した貴重な資料が掲載されています。当代表の名倉慎一郎氏は、「私たちが失ってきたものが、まだ根強く残っているのが水窪である。」と「はじめに」で述べています。

氏は続けて「三月四日には三遠南信自動車道が一部開通し、四月一四日には新東名高速道路が開通して、これにつながった。将来は、中央自動車道と接続して、三遠南信間の交流がより深まると期待されているが、便利な道路ができればできるほど、山間地の住民は都会に流れ、過疎化に拍車をかけることになるという事例も既にあちこちで耳にしていることである。」と懸念を示されています。遠州常民文化談話会が水窪町の調査をおこなってから14年が過ぎています。そして、2020年に始まった新型コロナウイルス感染症拡大対策で、人びとが集まることも話すことも敬遠され、以後、回復していない祭りも少なくありません。時間の経緯と交通環境の変化の中で、草木とその周辺の地域の現状を知り、将来の民俗について考えてみたいと思います。

日程: 令和8年3月22日(日)～23日(月)

場所: 浜松市天竜区水窪町奥領家草木ほか

集合: 天竜浜名湖鉄道 天竜二俣駅 10:00

(天竜浜名湖鉄道 掛川8:56発→天竜二俣9:46着)

(遠州鉄道 新浜松8:48発→西鹿島9:21着9:26発→天竜二俣9:31着)

宿泊: 水窪町商店街(小畑) 旅館中村館

7,000円(朝食付)

浜松市天竜区水窪町奥領家3362-2

TEL 053-987-1119

夕食: つぶ食 いしもと(予定)

約4,000円

浜松市天竜区水窪町地頭方389

TEL 053-987-0411

参加費: 15,000円

(含宿泊費+22日飲食費+資料代+保険)